

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第3号

令和3年 11月 10日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 引田 雄士

【提案日時】

10月6日（水）

提案 中村 勇翔 先生（稲荷台小）

【会 場】

オンライン

司会 中村 朝雄 先生（本郷小）

記録 宮原 美由紀先生（末吉小）

単元名：『潜入Yパン工場～みんなの手元にパンが届くまで～』

提案者より

- ・教科書では、シウマイを扱っているが、より身近にということを考えてパンを扱って取り組んだ。学校からの距離は少し離れているが、子どもたちとパンの袋集めに取り組んだところYパン工場のパンが多かった。
- ・コロナの状況で工場見学に行くことができないので、ガイドブックや教師が焦点化した資料を用意した。人と機械に着目しながら資料を見るようにした。
- ・前時にパンの生産ラインの様子を写した動画を見ていたときに、ほとんど機械でつくられる中で、所々人が出てくる中で、最後に人が出てくるところで「この人何しているのだろうか。」ということで、本気の学習問題になった。
- ・当初検品の様子を本時の資料として考えていたが、Yパン工場から資料の提供は難しいと言われた。

協議内容

視点①

- ・生成や検品など生産に関する言葉を子どもたちにどのように理解させていくかが大切だと感じた。
- ・子どもたちとパンの袋を集めることで、気持ち的に身近に引き寄せることができたのではないか。
- ・資料を見る視点を明確にさせていた。生産工程は複雑で、たくさんのことを行っているが、人と機械が作業をすることを分けることで、子どもたちの資料の見とりがしやすくなったのではないか。

視点②

子どもが社会的事象等を獲得している姿

- ・子どもたちが、パン生産に関する言葉（焼き加減・ふっくら・さわり心地）などを使って、自分の考えを説明している。
- ・（いつでもどこでも）同じ品質ということに気付いてほしい。 ←教師の思い

授業記録から、子どもたちの予想で終わっているところもある。

本時の資料として

→実物のパンをいくつか用意して比べる方法もある。

→買っている人の視点で考えていくと深まることもある。

・C37の発言「機械で作っているけど時間や場所によって違うかもしれない。」

→品質について考えている発言。人の必要性につなげることもできる。

裏付けできるような資料があればよかった。→授業者も同じ思い。しかし、会社の意向で、検品の資料の入手は難しかった。

・T14「じゃあ、この予想を解決するためにどんな資料があったらいい？」

C20「その先」

C21「何の先？」

C22「人がパンを見終わった後のことが見えれば。

後、どうしてその人が見ているのか。」

これらのやりとりから、本単
元までに、「学習の仕方を学
んでいる姿」が見える。

・振り返りで子どもたちが品質という言葉を使っていた→言葉をしっかりと抑えていたからこそ出る言葉。

<講師の先生より>

杉田小学校 校長 若色先生

単元づくりの視点

・心の距離を近づける手立て→「自分たちが食べているパン」という思いでスタートしていることは、そのことにつながる。

・単元づくりについて →本時目標が言葉を入れ替えると、どこの学校でも使えるような物になっている。

※子どもたちに合わせた独自色をだすことで、こだわりにつながっていく。

提案資料について

・本時までの流れと計画が変わっていたり、単元計画で2時間扱いになっていたりと
るところ。

→どうして、軌道修正を行ったのか、2時間のどこで切ったのかなどが見えてくると、本時までのつながりがより明確になる。

本時について

・C6～C19 前時までに考えていたことの発言

↓中心資料が出ている

C29～C42 資料を見た後の発言

前後の発言を比べる

変容がある→資料が有効

変容がない→資料が有効的

に働いていない。

・C43～C48 「売れる」という視点をもって発言している。

→今後の単元につながる発言。

まとめで、「新聞づくり」とかではなく、どのようなことに気付いて、どのようなことを考えてほしいのか、教師がしっかりと考えていくことが大切。